

## 使徒の働き13章23節 「約束のことば」

### 1A 約束の確かさ

- 1B キリストの現れを信じるダビデ
- 2B 神の言葉の実現
- 3B 天地よりも堅い言葉
- 4B 神のことばとなった方

### 2A 信じる必要

- 1B 律法で実現できなかった義
- 2B 約束を迎え入れた族長たち
- 3B 信仰による御霊の注ぎ
- 4B 生きた御言葉

## 本文

使徒の働き 13 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは使徒の働き 13 章 12 節までできました。アンティオキアの教会でバルナバとパウロが、宣教の働きに召されて、その旅を出発させたところを読みました。地中海に浮かぶ島、キプロスに向かい、そこで福音を伝えました。そして、13 節以降で、今のトルコ、ローマ時代のアジアと呼ばれていたところに上陸します。そしてバルナバとパウロは、ピシディア地方にあるアンティオキアに来ます。彼らが送り出されたアンティオキアとは違います。そこはシリア地方にありますが、こちらはピシディア地方にあるアンティオキアで、同じ名前です。パウロの、ユダヤ教会堂におけるすぐれた福音宣教のことばを読むことができますが、その中に出て来る言葉、23 節に注目したいと思います。「**神は約束にしたがって、このダビデの子孫から、イスラエルに救い主イエスを送ってくださいました。**」

### 1A 約束の確かさ

神は、途方もない形で、ご自分の約束を実現されます。みなさんは、誰かに約束されて、それをいつまでも待ち続けることができるでしょうか？ また会おうねと言って、どこかで会うことを約束して、その時刻に来ないで、何分間待てるでしょうか？ 「ああ、きっと会うことを忘れたんだな」と判断しますね、何分後でしょうか？

神は、信じられない長期的な時間軸をもって、ご自分の語られることを実現されます。神は永遠の神であり、「Ⅱペテ 3:8 主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。」ですから、私たちの理解や想像をはるかに超えます。聖書が、他の書物、他の宗教の経典とも違う、神からのものであることを証明する最も大きな証拠は、予め語られていたということです。仏典は、仏陀が現れてからはるか後に書かれています。イスラム教の経典コーランも、ムハンマドが現れ

てから後に書かれています。けれども、イエスは、千数百年前から語られてきたことが、この方の生涯に実現して、それでこの方が確かに、その約束の救い主、メシアであることが証明されました。けれども、語られたのはダビデに語られたのは紀元前の約千年ですから、千年の月日が経ったのです。途方もない期間ですが、それでも確実に実現するのです。

聖書の預言は、キリストについての預言が中心に書かれています。また、キリストを輩出するイスラエル民族についての預言も数多くあります。ユダヤ人は、紀元後 70 年にエルサレムをローマに破壊されてから、世界に散って離散の民となりました。祖国を失い、住む土地も失った彼らがユダヤ民族として生きていくことができるのは、時間の問題です。聖書時代に出て来る、ペリシテ人、アンモン人、モアブ人など、それは文献や遺跡では彼らがいたことが確認されても、現存している民族ではありません。古代に生きていた人々です。しかし、歴史の中で奇跡が起こりました。なぜか、ユダヤ民族はその民族性を失うことなく、その後、千年百年も生き続けたのです。イギリスの歴史家トインビーという歴史家は、彼自身が無神論者であったにもかかわらず、「ユダヤ民族自体が存在することが、奇跡である」ことを述べています。彼らは化石の民族だとも言ったと記憶しています。シーラカンスが古代の魚なのに、それでも今も認めることができるように、化石の民族だと。



しかし、誰もイスラエルが建国されることは想像だにしていませんでした。どの専門家も、百科事典までが、ヘブル人の国も言葉も復興するということを考えること自体が夢想であり、空想話だと思われていました。ところが、1948 年にそれが実現したのです。もっとすごいのは、それを信じて約束の地に向かったユダヤ人たちで

す。欧州のユダヤ人は近代の中に生きていましたが、イエメンなど、北アフリカやアラブ諸国に住んでいたユダヤ人は、イスラエルの国が建てられたと聞かされた後、そのまま生活を捨てて、歩いて北上しようとしていったのです。なぜか？「だって、神が私たちが約束の地に戻すと約束されたから。」ということです。<sup>1</sup>先に、約束の時間に遅れている人を、何分待つことができますか？と尋ねましたが、彼らは神の約束を二千年近く待っていたのです！それだけ、彼らは神のことばが確かで、その信仰を代々、受け継がなければいけないと思っていました。今朝は、そうしたみことばの確かさに触れていきたいと思えます。

## 1B キリストの現れを信じるダビデ

パウロは、ピシディアのアンティオキアの会堂で、律法と預言者たちの朗読があった後に、奨励

<sup>1</sup> <https://esefarad.com/?p=57218>

のことばがあったら、お話くださいと頼まれました。そこで彼は、イスラエルの民のエジプトから出て来る歴史から始めました。淡々と語り、ダビデのところまで来た時に、一気に、「このダビデの子孫から、イスラエルに救い主イエスを送っていただきました」と言いました。そして、その後も、イエス様の生涯、十字架、そして復活を語りますが、復活のところでも、ダビデへの約束について言及しています。「<sup>34</sup> そして、神がイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ちて滅びることがない方とされたことについては、こう言うておられました。『わたしはダビデへの確かで真実な約束を、あなたがたに与える。』ダビデの子として、メシアが来る約束は、旧約聖書の中に膨大にあります。交読文、132 篇もその一つです。

この約束を初めに神が語られたのは、ダビデ自身に対してです。彼が、自分の宮殿から天幕の中にある契約の箱を見て、これは申し訳ない、神のための建物を建てたいと預言者である友人のナタンに提案しました。ナタンは、ぜひしてみてくださいと答えたのですが、夜に主に語られました。そのことをダビデに伝えたのです。主はこれまで家に住まわれたことがなく、幕屋の中に現れ、また、杉材の家を建てよと命じたことがない、とも言われました。ダビデは、何か主にしなければいけないと思ったのですが、主はダビデを偉大な王とするために、一切のことを行っておられたのです。ですから、ダビデは恵みを受け取るだけでよいとされたのです。そして、言われました。「Ⅱサム 7:11b-13【主】はあなたに告げる。【主】があなたのために一つの家を造る、と。あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。」

ダビデが死んだ後に、世継ぎの子が神ご自身の王国の座に、「とこしえまでも」着くという約束です。ダビデは、これが単に自分の息子のことを指していることと思いませんでした。メシアが自分の子孫から出て来る、そして神の国を治めると言うことが分かりました。彼はあまりにも圧倒され、こう祈っています。「7:28 今、【神】、主よ、あなたこそ神です。あなたのおことばは、まことです。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました。」この約束は真実であり、その約束の通りにしてくださいと祈ったのです。そしてここでパウロが、アンティオキアの会堂にいるユダヤ人と改宗者たちに、「この約束が実現したのですよ」と宣言しているのです。これが、どれほど驚くことか、身に震えることか、そして喜びの知らせであるか分かりません。

## 2B 神の言葉の実現

主は真実な方であり、必ずやその言葉を実現されることをイスラエルの民は目撃しました。エジプトから出てきて、シナイ山の麓にいる時から、彼らが、アブラハム、イサク、ヤコブに約束された地に入り、その住民を追いはらって、自分たちの相続地となることを神は約束されました。しかし、その住民は強大で、力強く、人間的には到底勝てるような相手ではありませんでした。けれども、ヨシヤたちがヨルダン川を渡ってから、エリコ、アイ、そして一つ一つの町を少しずつ攻略してい

きました。そして、ヨシュアたちは、それぞれの部族にくじを引かせて、割り当て地をあてがいました。その行程は容易いものではありませんでした。困難が多くありました。けれども、確かに主の約束されたことは実現したのです。そこでヨシュア記 21 章 45 節にはこうあります。「主がイスラエルの家に告げられた良いことは、一つもたがわず、すべて実現した。」すべて実現したのです。一つもたがわずに実現しました。

イザヤは預言して、神の言葉は天から降る雨のようであると語りました。「55:10-11 雨や雪は、天から降って、もとに戻らず、地を潤して物を生えさせ、芽を出させて、種蒔く人に種を与え、食べる人にパンを与える。そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」雨が途中まで降って、空中で天に戻ることはないように、主が語られたことばは、そのことを成功させないで戻ってくることはない、ということです。

### 3B 天地よりも堅い言葉

ですから、パウロが説教をした時、律法と預言者から一切離れることなく、ねちねちと起こっていることが聖書の約束の通りであることを説いていったのです。彼らは神の言葉に対する信頼がありましたから、イエスこそが約束の方であることが分かって行ったのです。

主イエスご自身が、神のことば、ご自身の言葉の確かさを語っておられたことを思い出してください。それを、実を結ぶ作物の種に例えて、必ず実を結び、しかも、三十倍、六十倍、百倍になることを約束されていました。私たちが良い心で受け入れ、しっかりとみことばを保っていさえすれば、です。御霊による実が、私たちの生活に必ず結ばれていきます。私たちの生活だけではありません。この天地が過ぎ去っても、ご自分のことばは過ぎ去らないと言われたのです。「マルコ 13:31 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。」

一昨日、カルバリーチャペル・コスタメサからスカイプ電話がありました。以前は宣教担当の牧師で、今は祈り会の担当牧師のフィルさんでした。祈るために連絡してくれたのですが、その中で何度となく、永遠の御国でした。そして、祈った後、こうも言ったのです。「天地は過ぎ去るけれども、教会は永遠に残る。神の創造の中で天地よりも、堅く立つ。私たちが教会に連なっていることは、本当にすごいことだ。」そうですね、天地が過ぎ去って、新天新地に住むのです。「Ⅱペテ 3:12-13 そのようにして、神の日が来るのを待ち望み、到来を早めなければなりません。その日の到来によって、天は燃え崩れ、天の万象は焼け溶けてしまいます。しかし私たちは、神の約束にしたがって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」

### 4B 神のことばとなった方

そして、イエスご自身が「神のことば」となられたことを思い出してください。「ヘブル 1:1-2a 神は

昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、2a この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。」かつては、神は預言者たちに語られましたが、神がご自分の語りたことを伝えられる時、ご自身の子によって語られたということです。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり」とあります(1:3)。そして主は白い馬に乗って天から地上に再臨される時に、ご自分の口から剣が出て、諸国の軍隊と戦われます。「黙示 19:13 その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれている。」神の言葉によって語られていた裁きを、主ご自身が執行されるのです。

## **2A 信じる必要**

### **1B 律法で実現できなかった義**

これだけ神の言葉は真実で必ず実現するのですが、人間はその真実さに対して、どう応答するのでしょうか？パウロは、ハバクク書を引用して、自分の説教をしめくくっています。「13:38-41 ですから、兄弟たち、あなたがたに知っていただきたい。このイエスを通して罪の赦しが宣べ伝えられているのです。また、モーセの律法を通しては義と認められることができなかつたすべてのことについて、39 この方によって、信じる者はみな義と認められるのです。40 ですから、預言者たちの書に言われているようなことが起こらないように、気をつけなさい。41 『見よ、嘲る者たち。驚け。そして消え去れ。わたしが一つの事をあなたがたの時代に行うからだ。それは、だれかが告げても、あなたがたには信じがたいことである。』」

パウロは、エレミヤ書にある新しい契約の約束を思いながら語っているのでしょう。そこには、イスラエルの民が、古い契約にある、律法に聞き従い、守り行うという命令においてことごとく失敗したことが告げられています。けれども、神が新しく契約を更新してくださって、心の板に律法を置いてくださる約束をされています。それによって、人が石の板ではなく、うちに住まわれる御霊によって神の戒めを守ることができるようになり、すべての罪は赦され、忘れられることが約束されています(エレミヤ 31:31-34)。ですから、モーセの律法によって義と認められなかつたのですが、新しい契約においては、罪の赦しを与える、イエスの流された血があり、この方を信じることによって、罪が赦されるだけでなく、忘れられ、ゆえに神に義と認められるのです。

このような、全く信仰によって受け入れ信じるのが、福音であり、要求されているのは信じることなのです。預言者ハバククが、義人は信仰によって生きるという神の言葉を伝えましたが、そここう言っているのです。「見よ、嘲る者たち。驚け。そして消え去れ。わたしが一つの事をあなたがたの時代に行うからだ。それは、だれかが告げても、あなたがたには信じがたいことである。」神がなされていることは、人の理解では信じがたいことである。けれども、それでも義人は信仰によって生きるのだと言われています。信じがたいことを、神の言われることは実現するという事で信じるのです。神に信頼するのです。そうすれば、その信仰が義と認められます。

## 2B 約束を迎え入れた族長たち

信じ難き時に信じることを、私たちはアブラハムから学ぶことができます。彼から強い国が出てきて、また彼の子孫によって祝福が来ることも、まだ子が生まれていないのに彼は信じました。その約束をイサクもヤコブも信じました。そこで、ヘブル書の著者はこう言います。「ヘブ 11:13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。」まだ自分たちには実現していなかったのに、それでも信じて死んでいったのです。アブラハムは、自分に与えられた土地は、購入した墓の敷地だけですが、それでも信じていました。そうやって、信じることによって約束を迎え入れるのです。

## 3B 信仰による御霊の注ぎ

そして信じるからこそ、御霊が注がれます。「ガラ 3:14 それは、アブラハムへの祝福がキリスト・イエスによって異邦人に及び、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるようになるためでした。」私たちが、神の言葉に従う生活は、御霊に拠らなければ決してできません。その御霊を受けるのは、御霊に満たされるのは、もっぱら信仰によるのです。神の言葉を聞いて、信じて受け入れる時に、それによって御霊が与えられるのです。

## 4B 生きた御言葉

そして、神の言葉が事実、みなさんを変えていきます。御言葉が信じるみなさんに、働くのです。パウロはテサロニケの人たちに言いました、「Iテサ 2:13 こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。」人間のことばではなく、事実、神のことばとして受け入れているという信仰がありました。それゆえに、そのことばがあなた方の内に働くのだよ、ということです。この天地さえ過ぎ去るのに、それでも過ぎ去らない神のことばです。どうか信じて、一人一人の内に働くのを見ることができますように。